

平成23年1月

平成22年度 北広島市学校教育改善プラン

学校・家庭・地域への「五つの提言」

- 考えてみませんか 協働して子ども達の生きる力を育むことを -

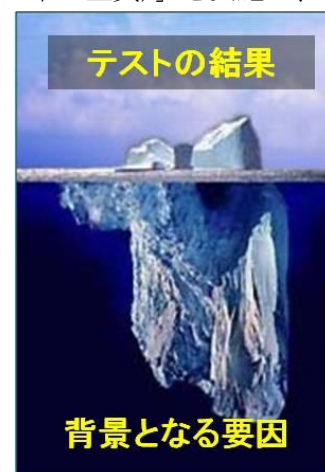
北広島市教育委員会

はじめに

北広島市では過去4年間にわたり、文部科学省の「全国学力・学習状況調査」（小学校6年と中学校3年生全員）、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校5年生と中学校2年生全員）」を実施し、その結果を分析し、学校教育の改善に活かしてきました。

全国的にも、そして本市においても、この4年間の調査結果を分析する中で、学校における子どもたちの学習や生活の状況が、学校生活だけでなく、家庭や地域での子どもたちの状況と密接不可分のものであり、学校の授業改善や教育課程の見直しだけでは、大きな変化が生まれにくいものであるということが明確になってきたのです。

それ故、学力学習状況調査の結果は、ちょうど海に浮かぶ氷山の水面部分の姿のようなもので、実はその背景には、その何倍もの海面下の部分（結果に結びつく背景となる要因）があり、それらの正確な把握（掌握）なくして、子どもの学力の向上は、なかなか具体化してこないのです。しかもその背景となる部分には、学校のみならず、家庭や地域での子どもの習慣等も影響しており、これらを含めた改善の処方箋を提示しないと、学力も体力も、より良き方向へと動き出さないことが明らかになってきたのです。



子ども達を学校・家庭・地域の連携・協働で育むことの大切さ

さらに、この調査は、単に学力や体力・運動能力等を調べるだけではなく、こどもの学習・生活の背景にある学習、運動習慣や生活習慣、学習や運動に対する考え方なども分析する幅広い調査であり、クロス集計（相関関係調査）なども行われ、その結果もできています。

その結果からは、子どもの学力や体力は、学習・運動習慣や生活習慣、睡眠時間や食習慣などとも密接に関わっていることや、その状況を改善するためには、学校・家庭・地域が、連携・協働して、子どもにも「より良き学習・運動・生活習慣」を育む必要があるなどが明確になってきました。

そこで、この学校教育改善プランでは、はじめに「4年間の調査で明らかになってきたこと」を分析

し、後半で、「学校・家庭・地域への五つの提言」をするという構成になっています。

北広島市の子ども達を、「豊かな心」、「たくましい体」、「確かな学力」を兼ね備えた人間力豊かな人に育むための、学校、家庭、地域がなすべき「五つの提言」です。共に、取り組みましょう！

高い学力と良き学習、生活習慣には明確な相関関係がありました！

4年間の調査で明確になった三つの相関関係

- ① 「毎日、朝食を食べている」、「毎日、同じ時刻に起床、就寝する」と回答している児童生徒は平均正答率も高い傾向にあります。
- ② 「国語、算数・数学が好き」「学習したことが将来役立つ」「学校に持っていく物を前日か、その日の朝に確かめている」「家で学校の授業の復習をしている」「読書が好き」と回答している児童生徒は平均正答率も高い傾向にあります。
- ③ 「物事をやり遂げた喜びを実感したことがある」「人の気持ちがわかる人間になりたい」「学校の規則を守っている」など、心の豊かさや優しさが見られる児童生徒は平均正答率も高い傾向にあります。

子どもの生きる力や確かな学力は、学校の教科指導のみによって育まれるものではありません。子どもを取り巻く学校、家庭、地域が、未来の日本を担う子どもたちを育むという視点から、有機的、一体的に子どもの学習と生活に関わることが必要です。

北広島市においては年々、学校・家庭・地域の連携・協働が進展し、このような「良き相関関係」にある子どもたちが増えてきています。しかし、まだまだ課題を抱えている子どもたちも多い実情があります。

今回の調査結果を踏まえると、北広島市の学校・家庭・地域においては、次の三つの解決すべき課題があります。

子どもたちが克服しなければならない三つの課題

(克服すべき課題①)

基礎・基本の定着とともに、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題を解く力を育成すること

(克服すべき課題②)

個々の読解力の差から成績分布の分散が拡大する傾向にあり、その背景にある家庭での学習時間、読書時間、睡眠時間などの学習意欲、学習習慣・生活習慣を改善させていくこと

(克服すべき課題③)

自分への自信を回復し、自らの将来への展望を明確にさせるとともに、体力の低下を克服させることが差し迫った課題であり、夢や志を育む教育の推進が求められていること

これらの課題を解決するには、知育、徳育や体育の充実のほか、国語をはじめとする言語に関する能力の重視や体験活動の充実により、他者、社会、自然・環境とかかわる中で、子どもたちに自分への自信（「かけがえのない自分」に気付くこと）をもたせることが大きな鍵となります。

そして自信の中核となるものが、より「良き生活習慣」の定着なのです。「意識が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」という言葉があります。「悪しき生活習慣」を改め、「良き生活習慣」の確立に、子ども自身がしっかりと向き合うように、学校・家庭・地域が一体となって支え励ましていく取り組みが必要です。

こんなにテレビ、ネット、メール等に依存していて良いのでしょうか？

今回の調査結果分析の中で、一番、気になったのは、下記の表に載せた市内児童・生徒の実態でした。

日本の子どもの家庭学習時間は、OECD（経済協力開発機構）の調査等でも、先進国の中で最下位に位置してい

ます。その少ない家庭学習時間を更に下回る学習時間しか確保できていない子ども

※脱TV、脱ゲーム、脱携帯、脱ネット、家庭学習増の必要性	小学校			中学校		
	市内	全道	全国	市内	全道	全国
テレビ視聴（2時間以上）	71.1%	71.3%	67.6%	59.8%	68.0%	63.6%
ゲーム（1時間以上）	56.9%	58.1%	47.9%	45.3%	50.7%	41.3%
インターネット（1時間以上）	19.5%	22.7%	18.1%	42.5%	43.6%	35.1%
メール（毎日かかさず）	10.1%	8.5%	9.5%	31.6%	29.9%	30.3%
平日の家庭学習（1時間以下）	55.0%	58.6%	41.8%	42.2%	42.5%	33.8%

もたちが、きわめて多いのが北海道や北広島市の子どもたちの実態です。

家庭学習時間の少なさに比べ、テレビ視聴、ゲーム、インターネット、メール等に費やす時間は、全国よりもかなり長くなっています。更に、別調査の体力・運動能力調査の結果では、睡眠時間も、昨年度よりも短くなっています。

これらの課題は、家庭に帰ってからの時間の過ごし方という側面からも、学校だけで改善することはできません。しかし、睡眠を削り、家庭学習時間を削り、テレビ視聴、ゲーム、インターネット、メール等に費やす時間を確保することが、「良き生活習慣」とは言えないことは明らかです。

最近、子どもたちにより良き生活習慣、学習習慣を確立させるために「家庭学習ノート」「家庭連絡ノート」などによるきめ細かな子どもの生活サポートをする学校が増えてきています。こうした配慮をすることも重要ですが、家庭との連携なしにはその成果は上がりません。

こうした実態をとらえて、以下に「五つの提言」をまとめました。学校によって、あるいは個々の子どもによって、これらの提言が当てはまらないこともあるかもしれませんが、しかし、北広島市の小、中学校の全体傾向からは、このような指摘が必要だと分析しています。

各学校においては、児童生徒の学校での様子と対比しながら、各家庭においては、子どもの日常と対比しながら、当てはまる点については、より良き方向性に向かうことができるよう、改善への一歩を踏み出すことが必要です。

学校・家庭・地域への「五つの提言」

-考えてみませんか 協働して子ども達の生きる力を育むことを-

1

学校は教科指導を通して…

もっと子どもたちに教科の持つ魅力を伝える努力をしましょう！

次世代を担う子どもたちに「学ぶ楽しさ」を伝えることは、学校の果たす大切な役割の一つです。そして、その「学び」をつなぐ重要な柱が、コミュニケーションの力であり、言語活動なのです。「学び」の道筋には、「習得」と「活用」、そして「探究」という学びのプロセスがあり、それらのバランスをつなぐ基盤となるものが言語に関する能力なのです。

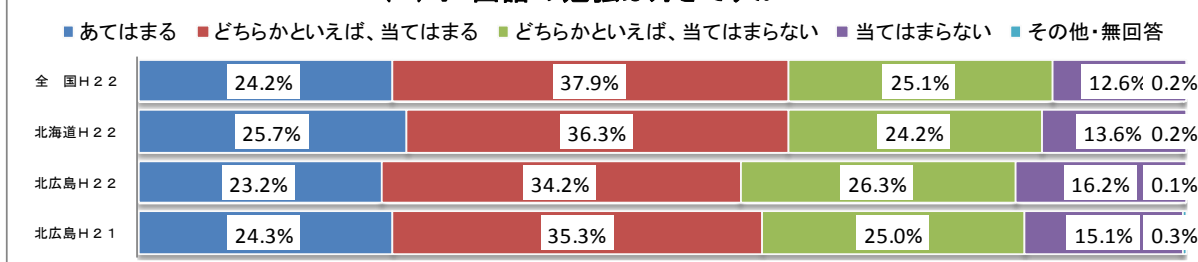
ですから、言語活動の中核となる教科・国語科の指導では、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、校区の小中学校や家庭・地域人材との連携などにも留意しながら、「学ぶ楽しさ」や学習習慣、学習順序等を体得させることが求められています。(算数・数学においてもそれは同様で、「習得」した基礎・基本を「活用」し、抽象的だった概念を具象化できる力の育成に努めなければなりません。)

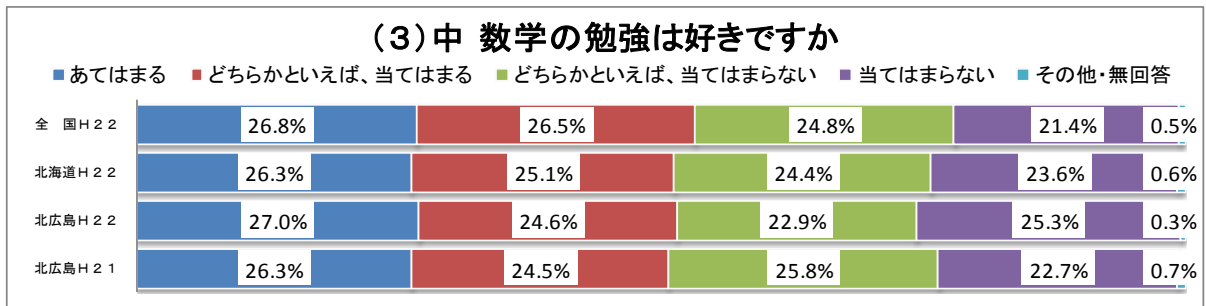
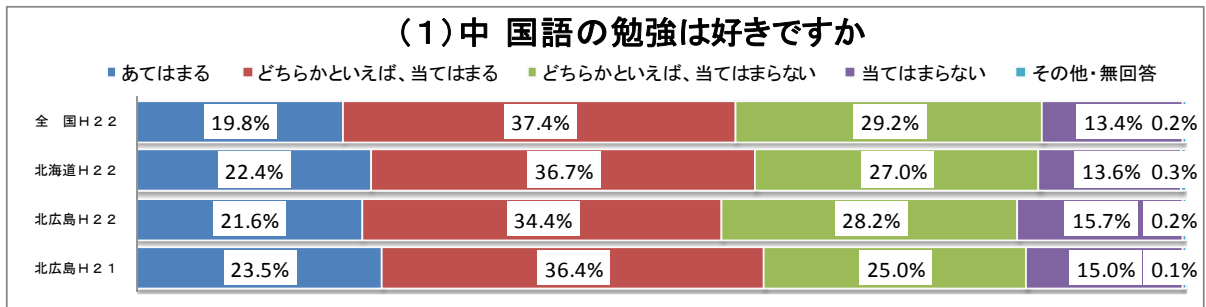
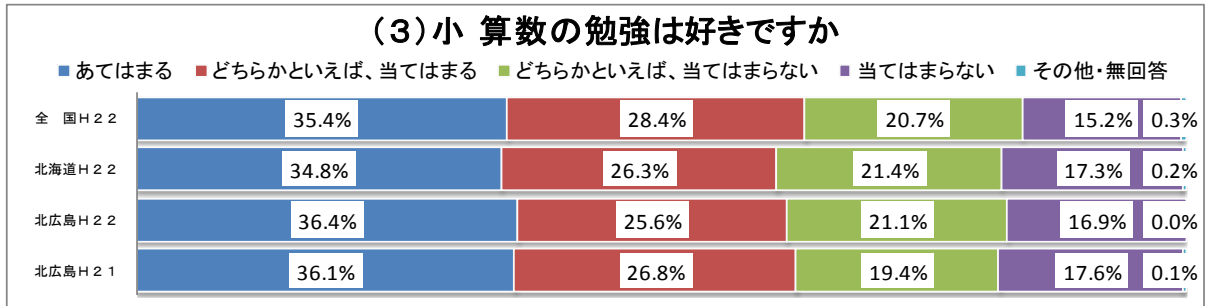
子どもたちの理数の力の落ち込みや理数離れが問題とされる昨今ですが、今回の調査結果からは、北広島市の子どもたちは算数・数学よりも、国語に課題があることが明確になりました。北広島市の子どもたちは、どちらかといえば、国語より算数・数学が好きで、得意なのです。そして、あまり国語が好きとは、感じていないことが分かってきたのです。

これは、好き嫌いの問題というよりも、もっと大きな問題です。というのは、国語を中核とする言語活動の力が育まれないと、これからの大きな伸びは期待できないからなのです。また、国際化する世界の中で、しっかりと自分を表現する基礎・基盤も、やはり国語の力に依拠する部分が大きいからなのです。

そこで、各校においては、読書指導などとともに、「国語の奥深さ」「日本語の素晴らしさ」を子どもたちに伝える授業の構築が課題となっています。そのためには研修を通じ教師の力量形成を図り、その指導力や深い教材分析を通じ、子どもたちに教科の魅力を伝えることが大切です。

(1)小 国語の勉強は好きですか





学校は全教育活動を通じて…

もっと子どもたちに丁寧にノートの使い方を教えていきましょう！

今年度、希望利用分の「学力調査」解答用紙を採点した道教委は、子どもたちの解答用紙への記載から、学校としてとりくむべき課題が発見されたと分析しています。そして、この指摘はこのテストの答案に限らず、北広島市の子どもたちの日常的なノートの使い方や日ごろのまとめ方にもあてはまる、学力向上に直結する重要な側面でもあるのです。

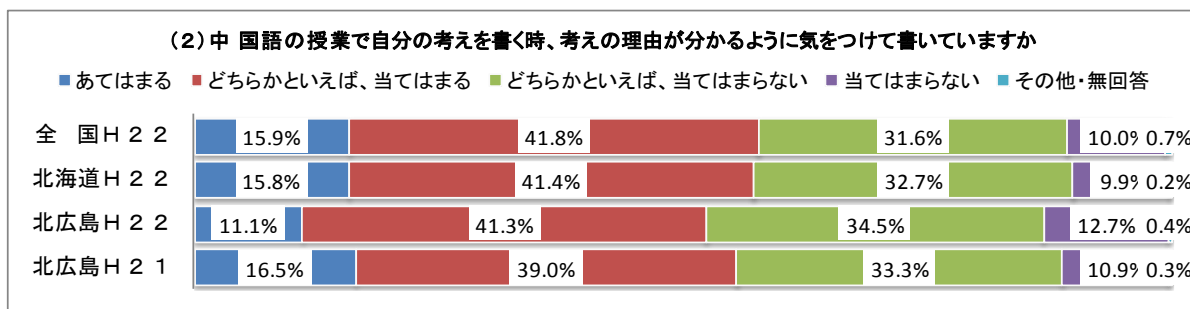
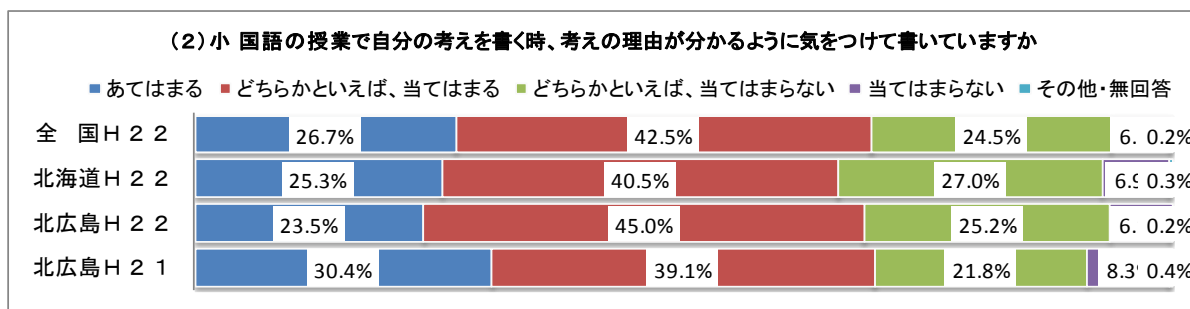
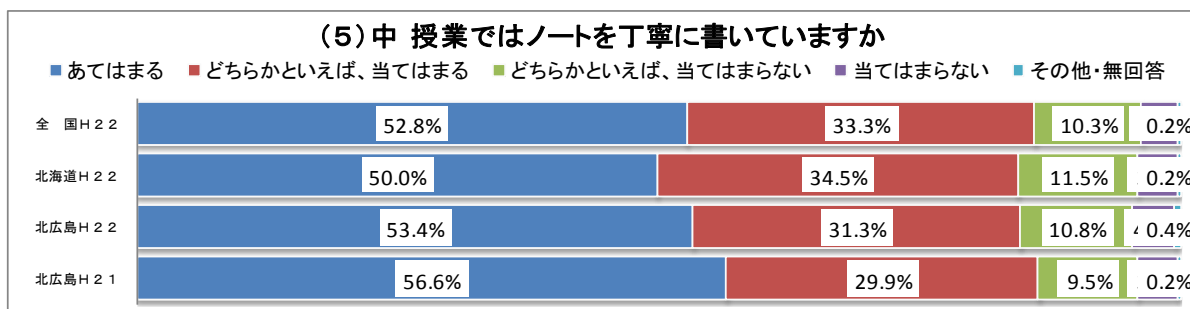
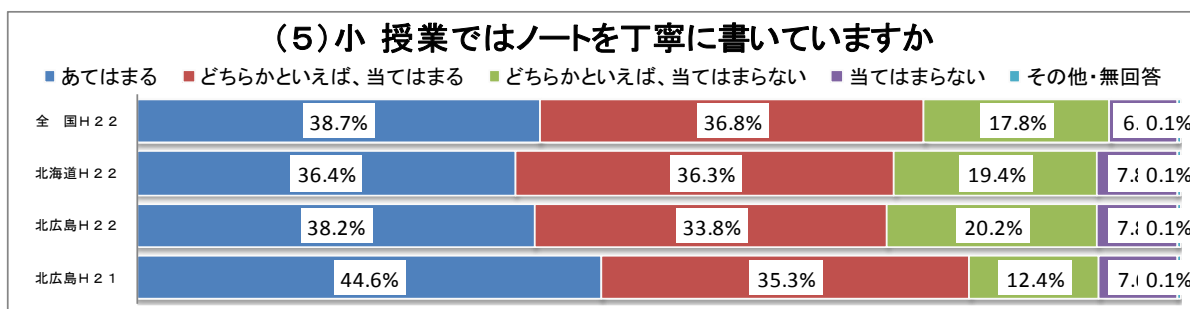
(道教委が指摘した子どもたちの解答用紙の実態)

- ・ 記号で答えるべきところを文章で書いている
- ・ 会話のような言葉で解答している
- ・ 解答欄の枠からはみ出したり、逆に見えないような小さい字で解答を書いている
- ・ 文字や数字が乱雑で、採点者に伝える姿勢が弱い
- ・ 説明や理由を解答する設問で空欄となっている

このような実態から、日常の授業で自分の考えを説明したり、字数や使う語の条件に応じてノートをまとめることの指導などの重要性が、再度、課題として浮き彫りになってきたのです。

「ノートは子ども達の頭の中」なのです。ノートがごちゃごちゃなら、頭の中も整理されていません。逆にきちんと理解している子どものノートはすっきりしているのです。

各小中学校においては、電子黒板の有機的な活用なども工夫しながら、丁寧に構造化された板書、ノート指導の充実・徹底を図り、子ども達を「すっきりしたノート」を書ける「ノートの達人」に育んでいく必要があります。



3

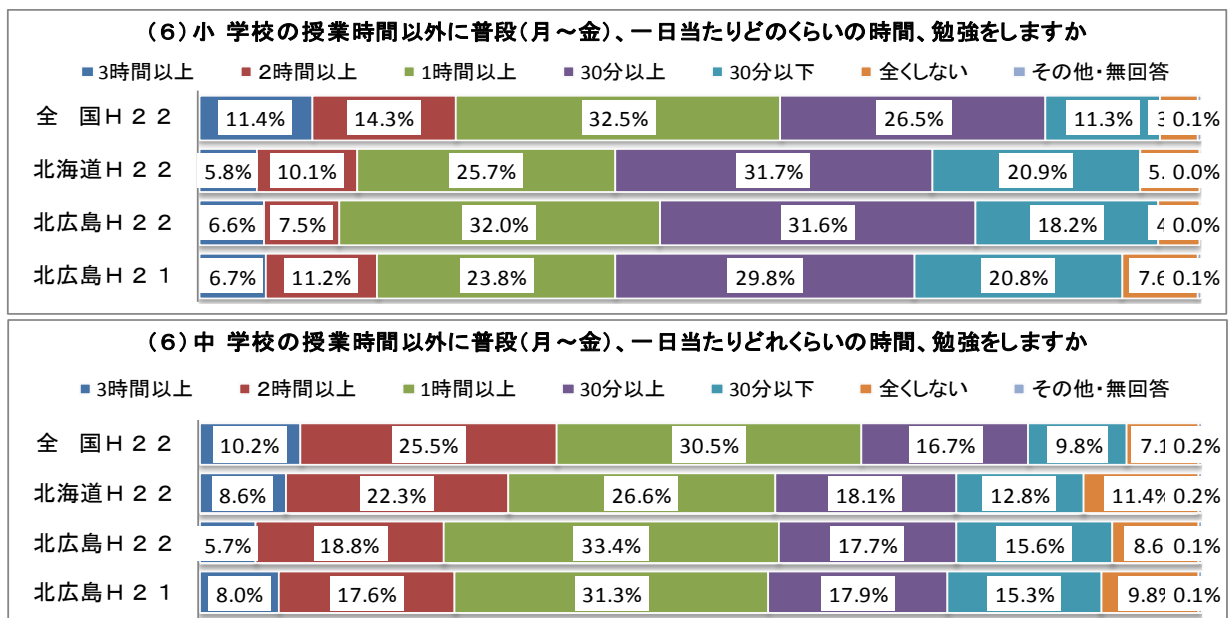
学校・家庭の連携の中で…

もっと子どもたちに家庭学習習慣を定着・充実させていきましょう！

OECD（経済協力開発機構）が実施した PISA 調査（ピザ調査：生徒の学習到達度調査）の調査結果等によると、日本の子どもたちの家庭学習時間（宿題や自分の勉強をする時間）が参加国の中で最低となっていることが指摘されています。その少ない日本の平均的な家庭学習時間を、更に下まわっているのが、北海道や北広島市の実態です。

学校は、子どもの発達段階にあわせて家庭学習課題を出すこと、家庭との連携の中で学習時間を家庭学習ノートに記載などの手だてを通じて、確認・支援していくことが必要です。

また、校区の小学校と中学校の教育連携や協働なども、きわめて重要な鍵となります。



学校・家庭・地域の連携で…

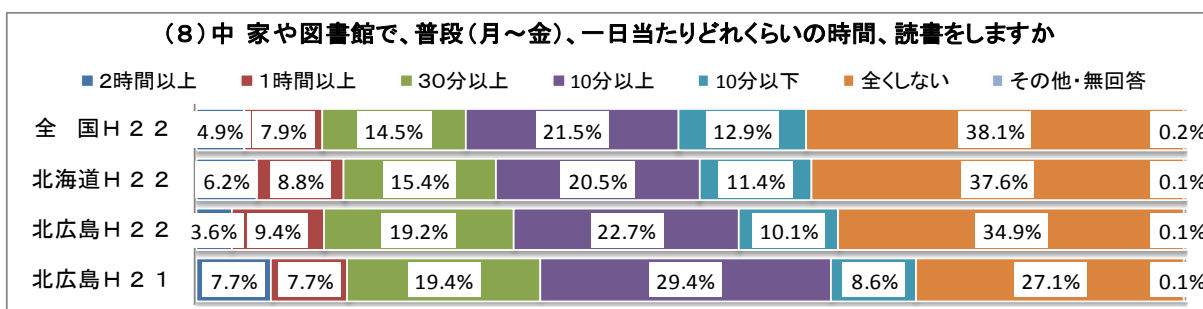
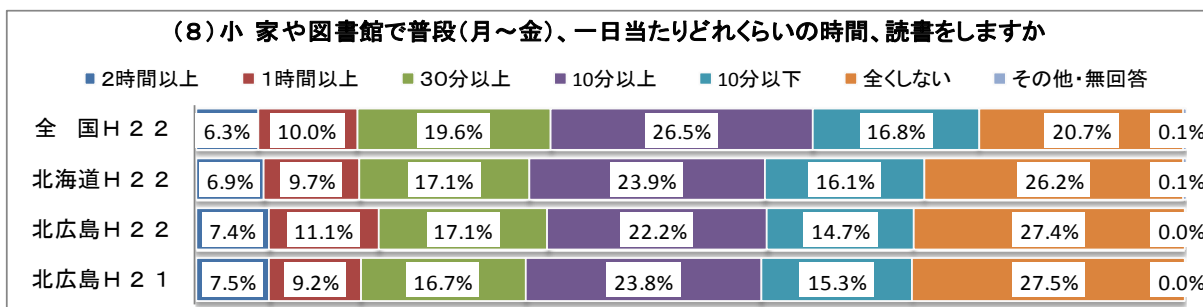
もっと子どもたちを読書に向かわせましょう！

OECD（経済協力開発機構）が実施した PISA 調査（ピザ調査：生徒の学習到達度調査）の調査結果によると、「毎日の趣味として、読書はしていない」と解答した子どもたちの数は、参加国の中で最も高い割合（55%）を示し、OECD 平均の 32% に比べてもはるかに多く、大きな課題の一つとなっています。

こうした危機感もあり、日本全国の各学校で「朝読書」や「家（うち）読書」の取り組みが積極的に行われるようになった経緯があります。

北広島市では各学校、家庭、地域の取り組みが結実し、良い方向に向かいつつありますが、読む子どもと、読まない子どもの二極化現象も生まれてきており、読書習慣の定着のためには、更なる環境整備（朝読書の充実、小中学校の読書指導連携、学校図書館運営）の必要性があり

ます。(過去4年間の学力学習状況調査のクロス集計結果からも、「読書が好き」と回答している児童生徒は平均正答率も高い傾向にあり、読書と学力には大きな相関関係があります。)



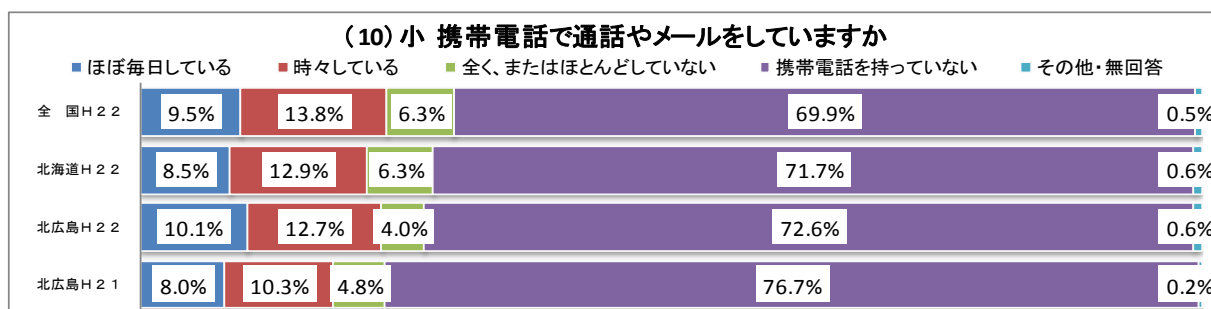
学校・家庭・地域の連携で…

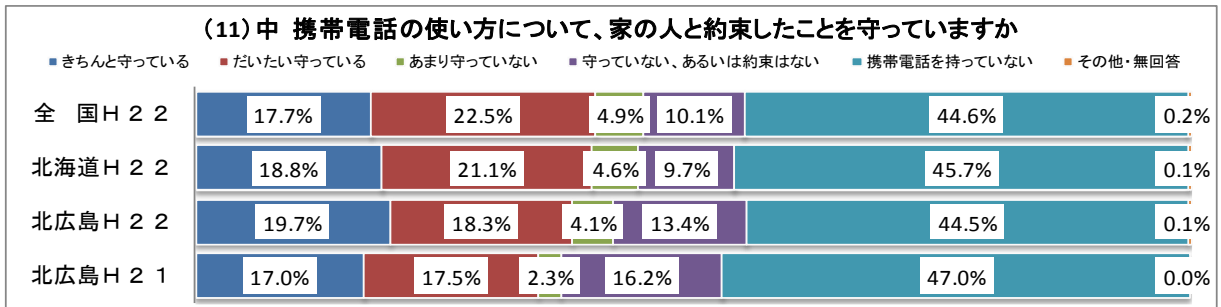
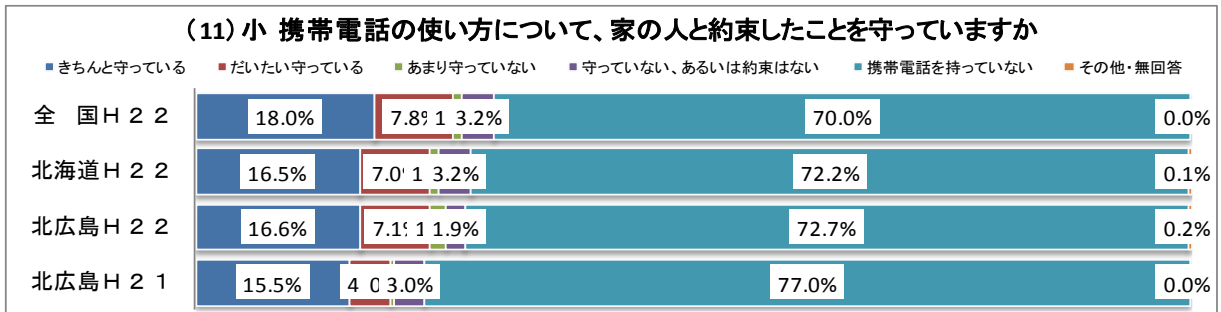
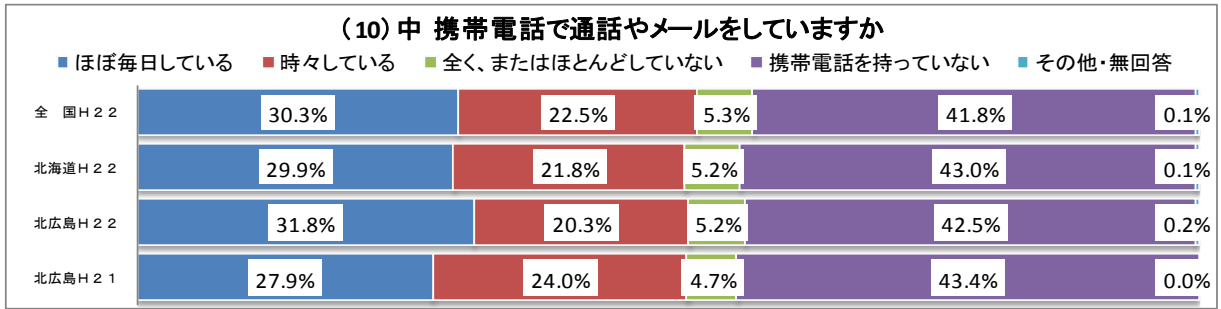
もっと子どもたちの悪しき生活習慣を改善させていきましょう！

北広島市の子どもたちは「早寝・早起き・朝ご飯」という食習慣や睡眠時間等の生活習慣の面では、ほぼ規則正しく、良い状況にあります。反面、子どもたちの学習時間や読書時間(場合によっては睡眠時間迄)を奪っているのが、テレビ、ゲーム、インターネット、メール等に費やす時間です。

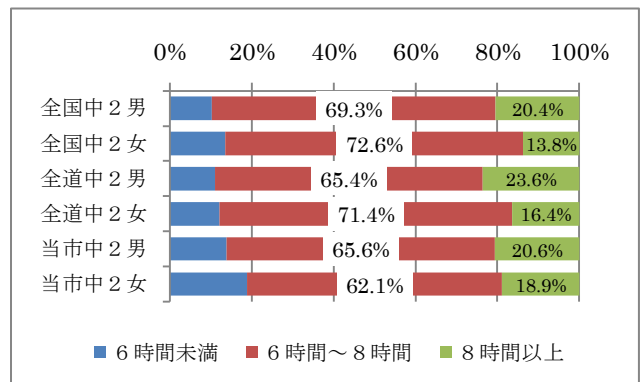
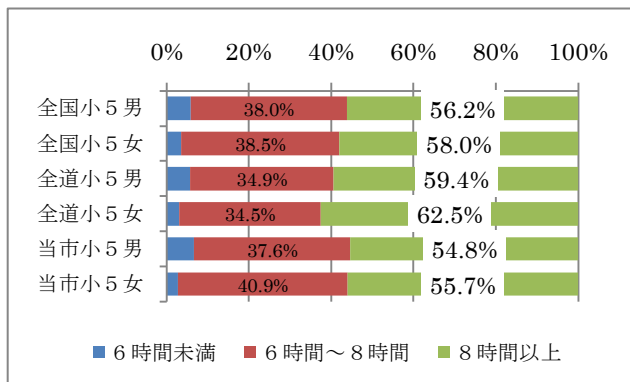
北海道の子どもたち、そして北広島市の子どもたちの生活習慣の中で、喫緊の改善課題がここにあります。冬が長く続く北国の特性もあるのかもしれませんが、全国よりもかなりの比率で、たくさんの時間をここに費やしています。

とくに携帯電話によるメール、インターネットについては、「家の人との使い方の約束」すらない状態で使っている子どもも多く、大きな問題性をはらんでいます。さらに携帯電話の所有率も高くなってきています。





小5・中2の睡眠時間（文部科学省 体力・運動能力検査から）



まとめ

バトンタッチを丁寧に行ない、子どもたちに自信と勇気を！

まもなく各学校では、進級、進学を期を迎えます。学校の年度はこの時期で変わっていきますが、子どもを教える学校教育は、指導の連続性にこそ、留意しなければなりません。

陸上競技に例えるならば、リレー競技におけるバトンタッチの場所、リレーゾーンに差しかかっている時期だからなのです。今、最も大切なのはバトンゾーンでの丁寧で確実なバトンの引き渡しです。どんなに足が速くとも、このバトンタッチで失敗すれば、もう遅れは取り戻しがつきません。

今年1年間の中で学んだことや、わかるようにしておかねばならないことは、これからの数カ月で、しっかりまとめをしておかねばなりません。わからないことをわからなのままにしておかないこと、不得意だったことを少し前向きに捉えることができるような自信を身につけて進学、進級することが大切なのです。

節目というものは、人の成長にとって大切な時期なのです。なぜなら人は、節目の時期には、一度立ち止まり、これまでの取組を振り返り、必ずステップアップを図ろうとするからです。

年度が替わる4月からは、各学校においては、新たな出会いが生まれます。もちろん、不安や緊張を抱えている子どももいますが、節目のこの時期、多くの仲間や先生方と出会う喜びを、1年間の学校生活の原動力に結び付けてもらいたいものです。そのためにも、ここで述べた5つの提言を参考にしてわくわくするような雪解けの時期を迎えてください。そのために、北広島市の小・中学校では、共通してこの五つの提言を重視し、教育の推進にあたっていきます。

